

「いのちに、ありがとう。」

大竹市立穂仁原小学校

3年 こばやし 小林 れいほう 伶鳳

今まで弟だったぼく。でも三年前、ぼくはお兄ちゃんにもなった。

お母さんのおなかが、どんどん大きくなって、ポコポコ中からけったりする。ぼくは手をあてておなかのいのちにおどろく。

「赤ちゃんをうむのは、いのちがけなんで。お前らも、お母さんがいのちがけでうんでくれたんじゃけえ、こんどはおうえんするんで。」

お父さん、お兄ちゃん、そしてぼくは出さんに立会うことにした。

「ふう、ふう」

くるしそうにお母さんが言う。こしをさするお父さん。たった一人でたたかっているお母さんに何も出さなくて、なきそうになる。

息があらくなって、しんじゃうんじゃないかと思って、ぼくまでくるしくなった。

「がんばって！」

よこでいっぱいおうえんした。それしかできなかった。

そして

「おぎゃー。」

元気な声がびょう室いっばいに広がって、ぼくはお兄ちゃんになった。

小さな弟は、はじめましてと言うようにぼくを見てギュと手をにぎってきた。

「ふあ〜。」

何とも言えない，とってもしあわせな気持ちで，なみだが出た。気がついたら赤ちゃんも家族もみんな，ないていた。

うれしくてハッピーな，なみだだった。わらいながらないていた。

第三才，ちびっこギャングで，いたずらもするけど，かわいくてたまらない。少しお父さんの気分なのかもしれない。

いつもつらい時，この日を思い出す。

くるしんでがんばってくれたお母さんの事。

手を取りあっておうえんした家族のこと。

一人じゃないって思える。

お父さん，お母さん，お兄ちゃん，弟。大事な家族。みんなありがとう。